



人吉母子支援ステーション。  
助産師会員による母子支援活動



こども食堂ネットワークによる炊き出しの様子



# どう生かされた!?

## 豪雨災害支援に女性の視点

県南を中心に甚大な被害をもたらした令和2年7月豪雨災害。ピーク時の7月12日には、県下212カ所の指定避難所に2512人が身を寄せました。過去の災害によると、一度に大勢の人々が集まる避難所では、男女のニーズの違いや子育て家庭への配慮不足などが課題とされてきました。発災直後から1カ月がたった時点での状況を、県男女参画・協働推進課の取組みをもとに振り返りました。

### 国のガイドラインをもとに被災地支援を実施

発災直後、県男女参画・協働推進課では、市町村や庁内関係部に災害対応力を強化する女性の視点より男女共同参画の視点からの防災・復興ガイドライン（令和2年5月内閣府作成）<sup>※</sup>を配布し活用を依頼しました。

このガイドラインは、地方公共団体や自主防災組織などが、

平時からの災害の備えや災害発生時、復興・復旧の段階ごとに、男女共同参画の視点から取り組むべき事項が紹介されています。避難所運営のチェックシートなどもあり、実用的な内容となっています。

### 取組みその1 チェックシートを活用した避難所の環境改善

男女共同参画の視点から注意が必要とされているのは、発災から2〜3日が過ぎ、避難所の子供が少し落ち着いてきたころ。男女のニーズの違いや子育て家庭への配慮不足が要因となつて起こるプライバシーや衛生、性被害・DVなどの問題です。そこで県は避難所に派遣される職員全員に国の「災害対応力を強化する女性の視点より男女共同参画の視点からの防災・復興ガイドライン」の避難所チェックシートを配布し、避難所の環境改善に活用しました。



令和2年7月豪雨の際の避難所の様子

一部の避難所においては、国のプッシュ型支援により熊本地震の際よりも早く間仕切りが設置されていました。女性専用のプライベートスペースの設置や女性用品をトイレに完備しておくなど、女性の視点が日を追うごとに充実していく様子も見られました。

※「災害対応力を強化する女性の視点～男女共同参画の視点からの防災・復興ガイドライン～」  
<http://www.gender.go.jp/policy/saigai/fukkou/guideline.html>

### ライフステージによって災害対応を見直そう

災害時は、平時に何とかしのいでいたことがしのげなくなるなど、今までの脆弱性が可視化されると言われています。妊娠期間に災害に見舞われると、災害時要支援者となるといったように、女性は、結婚、妊娠、出産とライフステージによって生活環境や体調が大きく変化することがあり、その都度、必要な備えや対策を見直しておくことが大切です。

災害には大きく2つのパターンが考えられます。①豪雨災害や地震など、災害が起きたその日から急激に環境が変化するもの②コロナウイルスのような疫病や地球温暖化、砂漠化など、ゆっくりと進行する環境変動。災害から身を守るために①②共通して大切なことは、シビリアン最悪の状態に置かれたときのことを年に1〜2回は想定すること。熊本地震は4月の夜間に発生しましたが、冬だったら、昼間だったら、雨の中だったら、最悪の状態が必要とされる備えや複数の対策を、その時々で自身の行動範囲や生活環境に応じて見直す癖をつけることが、「こんなことが起きるはずではなかったを減らすことにつながります。自分の身が安全でなければ、周りの人を助けることができません。まずは、自分の安全確認を行い、身の回りにあるもので備えることを始めてみましょう。



国立大学法人熊本大学  
大学院先端科学研究部  
社会基盤計画分野  
准教授  
竹内 裕希子氏

### 防災・復興の意思決定の場に女性の声を!!

昨年度の都道府県防災会議における女性委員が占める割合は、全国平均16.0%。そのうち、熊本県は10.7%、今回の被災地の一つである人吉市の防災会議は8.1%と、全国の中でも未だ低い状況です。この現状は、女性の視点が十分に生かされず、いざ災害に遭ったときに、女性が必要とする支援が提供されないなど、被害を大きくしてしまう恐れがあります。いつ、どこでも起こり得る災害。早急に、防災・復興の場面で重要な女性の声を意思決定の場に届ける必要があります。

今回の豪雨災害では、コロナ禍で県外からのボランティア支援を受けづらい状況にあった中、県内のこども食堂ネットワークや女性団体による炊き出し、県助産師会員の母子支援活動など、女性のネットワークを生かした支援も行われていました。引き続き、こういった女性たちを後押し、ネットワークしていくことはもちろん、地域で活躍できる女性リーダーを新たに育成していくことが、センターとしての大きな役割であると再認識しました。

今回の豪雨災害では、コロナ禍で県外からのボランティア支

今年度からは、「男女共同参画の視点からの防災講師養成講座」をスタートしています。今後この取組みを加速させていきたいと思

### 取組みその3 メンタルヘルスの不調未然に防ぐ働きかけ

被災者の支援に当たる人々がメンタルの不調を来すことは、過去の震災でも課題とされてきました。そこで熊本地震の際に作成されたよりよい支援を続けるための自己メンテナンスシート「熊本市男女共同参画センター」提供を支援者に配布しました。



「よりよい支援を続けるための自己メンテナンスシート」  
熊本市男女共同参画センターはあもにのホームページからもダウンロードできます。  
<http://harmony-mimozaza.org/news/2017/03/post-152.html>

### オンライン対応可

### 令和2年度熊本県男女共同参画アドバイザー派遣事業

「地域や家庭で、多様な視点を持った防災に取り組みたい」という事業所や団体の研修会などに専門の講師を派遣します。詳しくは、くまもと県民交流館パレア 男女共同参画センターホームページへ。お気軽にお問い合わせください。

くまもと県民交流館パレア  
男女共同参画センター  
<http://www.parea.pref.kumamoto.jp/danjo/>

